

ひろどめの

広留野大根生産出荷協議会

広留野大根生産出荷協議会は、生産者7名、生産面積9haで、県東部でも有数の大根の産地です。広留野大根の歴史は古く、昭和23年に開拓された土地を大根畑に変えてきました。標高の高さを利用して夏大根を栽培しており、高原の日差しと夜の冷え込みが、甘みが強く、適度な辛味もあって後味が爽やかな大根を生み出します。以前は手作業が主体でしたが、近年は機械化による省力化を図るとともに、産地にあった品種を選び、味と形がよいと評判の大根を作り続けています。



広留野の大根畑

ふなおかしろねぎせいさんぶ

船岡白葱生産部

船岡白葱生産部は、部員数11名、生産面積6.3 haで、主に秋冬ねぎを栽培しています。生産者はみなさん仲が良く、困ったことがあれば気軽に相談することができます。地域全体で良い白ねぎが作れるよう日々お互いに情報交換を行いながら栽培を行えるので、初めて白ねぎを作る人も安心して栽培ができます。一緒に白ねぎを作ってみませんか？



ちずまいせいさんぶかい

JAIなば智頭支店 智頭米生産部会

智頭町は、周囲に1,000m級の中国山脈の山々が連なる鳥取砂丘を育む千代川源流の郷です。

智頭米生産部会では、部会員20名で、この自然環境を活かした高食味値の米を、環境保全型農業で生産しています。基準を満たした米は、ブランド米「智頭米源流そだち」として販売しています。



部会長 草刈氏

こ お げ か じ つ ぶ

郡家果実部

郡家果実部は、60名の梨生産者で構成し、21ha（令和4年時点）の面積で栽培しています。

県内で最も早くから光センサー付き選果機を導入して糖度測定を行うなど、味重視の生産・販売に取り組んでいます。また、抜群の甘さで人気の

「新甘泉」や「王秋」の栽培、新規参入者にも取り組みやすい樹形の「ジョイント仕立て」の導入を進めています。若い生産者も増えてきています。一緒に梨を栽培しませんか。



二十世紀梨の選果の様子(選果場)

こ お げ か き せ い さ ん ぶ

郡家柿生産部

郡家柿生産部は、104名の柿生産者で構成し、33ha（令和4年時点）の面積で栽培しています。

柿の中でも「花御所柿」は、江戸時代から栽培されている歴史ある甘柿で、ほぼ郡家地区だけで栽培され、果肉がきめ細かく上品で甘く、地理的表示保護制度に登録されているブランド柿です。また、鳥取県で育成された早生の「輝太郎柿」の栽培も増えてきています。生産部の仲間になって柿栽培をしてみませんか。



花御所柿の収穫期(11月~12月)

はっとうかじつぶ

八東果実部

八東果実部は、部員数42名で組織され、栽培面積は13.7haとなります。主に二十世紀や新甘泉が栽培されており、新甘泉は若い生産者を中心にジョイント栽培での導入が増えています。

果実部では栽培指導会や、部員ほ場の巡回など、より良い梨づくりに向けた活動に取り組んでおり、栽培経験が浅い生産者も技術・知識を学びやすい場となっています。



「新甘泉」のジョイント園

はっとうかきせいさんぶ

八東柿生産部

八東柿生産部は、部員数61名、栽培面積17.7haで、主に西条や輝太郎が栽培されています。「西条」は渋抜きを行うことで、甘くとろける食感になるのが特徴的な柿で、干し柿やあんぽ柿としても食べられています。「輝太郎」は鳥取県で育成された収穫時期の早い柿です。大玉・高糖度で見た目、味ともに非常に評価が高く、百貨店などでも高級柿として取り扱われています。生産部では栽培指導会や、部員のほ場巡回などの活動を行っています。経験の有無に関わらず、八東柿生産部と一緒に柿栽培を楽しみませんか？



「輝太郎」の選果の様子